



弘前地区管内のふじの肥大は7, 8cm、平年比100%と平年並みとなっています。
 早生種の収穫、中・晩生種の着色管理は計画的に進め、農作業中の事故には十分注意しましょう。

〇すす病・黒星病特別散布の実施について

気温の低下とともに黒星病菌の飛散が再開します。秋期感染による被害葉は翌年の感染源にもなる為、すす病対策とともに黒星病予防の為、「**9月中旬**」に「**ストライド顆粒水和剤**」の特別散布を実施しましょう。

・適用

希釈倍数	散布量	使用時期	使用回数
1, 500倍	500ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内

〇ひろさきふじ・トキの収穫

ひろさきふじ～ 着色が進んで、ツル元の青味が抜け白っぽくなったら収穫適期です。

トキ～ 食味重視の品種です。糖度をしっかりとせて収穫しましょう。陽光面がうすく赤色になった頃が収穫適期です。

※ひろさきふじは糖度13.0度以上の夢ひかり、トキは糖度15.0度以上のメジャートキを目指しましょう！

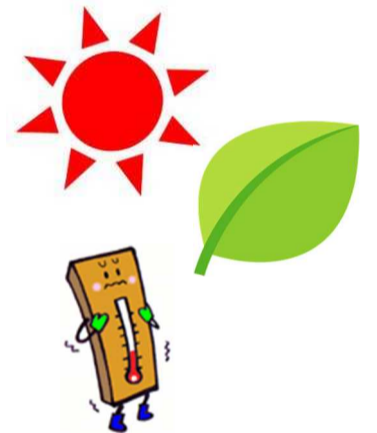
〇中・晩生種の着色管理～もう一度基本に戻って適期に作業を進めましょう～

夏場盛んに肥大していた果実は、今後緑色が抜け黄色～赤色になり、着色管理が本格化してきます。りんごの着色には「**葉で作られた養分**」・「**低温**」・「**日光**」が必要です。「**葉で着色させる**」という意識を持って着色管理を行いましょう。

着色の条件

りんごの赤い色はアントシアニンという色素です。着色の第一条件はアントシアニンのもととなる糖が存在することです。アントシアニン生成には・・・

日照	特に、紫外線が必要です。支柱入れをこまめに行い日光が樹冠内に入るようにしましょう。
気温	10℃～20℃が適しています。15℃前後が最適です。 品種により若干違います。ふじでは10℃。
葉で作られた養分(糖)	葉で作られた養分が赤い色素(アントシアニン)の原料となります。有袋は成熟初めで多く作られ、無袋は成熟が進んでくると多く作られます。



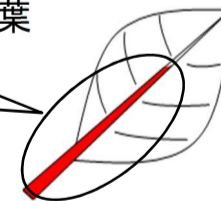
葉取り

葉で作られた養分が十分果実に蓄えられると着色がより進み、味、鮮度、貯蔵性も良くなります。

サンジョナ～ 着色には葉で作られる養分を多く必要とします。陽光面の着色を確認してから行い、葉摘みを開始しましょう。

ふじ～ ふじの着色には約1ヶ月の着色期間が必要です。そのためツル元の日陰をつくる葉を取り除きましょう。10月入ってから本格的に葉摘みを開始しましょう。

葉柄が赤く色づいてきたら、本格的に行いましょう。



〇日焼け対策

果実温度と外気温が同じになるくらい10時から15時の間に除袋しましょう。

日中の気温が28℃以上になる時は、直射日光が当たる場所の着色管理は見合わせましょう。

また、最低気温が低く寒暖の差が大きい場合も日焼けに注意しましょう。

除袋～除袋が遅れると地色の抜けすぎにより着色不良の原因となります～

有袋果は熟度が進みすぎるとアントシアニンは作られにくくなります。

遅くともジョナゴールドは9月25日頃まで、ふじでは9月末までに終わるようにしましょう。

除袋前葉摘みは避け、除袋後数日経ってから葉摘みを始めてください。

除袋時は果実に密着している葉を摘み取りましょう。

内袋の除袋日の目安

青色の場合：外袋除袋後3～4日後に内袋をはく

赤色の場合：外袋除袋後4～7日後に内袋をはく

りんごの栽培履歴をまだ提出していない方は早急に提出をお願いします。